

「はじめに」

秋田県スキー連盟 教育本部

本部長 浅石 敦 幸

昨年は高校野球で盛り上がり、今年はラグビーのワールドカップで盛り上がっております我が日本国ですが、皆様は何に情熱を傾け毎日を過ごされておいででしょうか？

この30年程の間にレジャーの楽しみ方も大きく変わり、食材と同じように季節のメリハリがなくなったとでも言いましょうか…春夏秋冬にとらわれず年中を通して屋内で・屋外で好きなスポーツを楽しむことが出来るようになりました。

子供たちにとって、夏のスポーツ・冬のスポーツという位置づけは薄れつつあるような気が致します。

それに伴い、少子高齢化によるスキー人口の減少…我々にとって切実な問題です。

このままでは絶滅危惧種ならぬ絶滅危惧スポーツにもなりかねないのではないかと…そのような危機感さえ感じております。

毎年、皆様に紙面や講習会等をお願いしておりますが、皆様の不断の努力でスキー人口の増加にご尽力いただきたいと思っております。

そしてさらに、我々スキーヤーを取り巻く環境が年々変わってきております。

特に顕著なのがインバウンド（訪日外国人）の増加でしょう。

政府のインバウンド対策が功を奏しているのか、多くの国から訪日客を呼び込んでおります。

スキーにおいてもニセコは勿論のこと、白馬・野沢をはじめとする信州・越州のスキー場には外国人スキーヤーがひしめき、夜ともなれば外食に出歩くインバウンドスキーヤーで海外リゾートに来たような錯覚さえ覚える程です。

そして徐々に良質な雪を求め東北方面にも足を伸ばしてきております。

今後、我々秋田のスキー場にも大挙してインバウンドスキーヤーが押し寄せてこないとも限りません。

スキー場には守らなければならないルールがあり、日本人であれ外人であれルールを守らなければ安全に楽しく滑ることは出来ません。

もし皆様がルール違反のインバウンドを見かけた時、注意できるでしょうか？

また、スクールに外国人が入校してきた時、対応できるでしょうか？

私たちは、スキー技術の他に多言語に対応するスキルも持たなければならなくなっているのです。

世の中は変わりつつあります。

時代に対応し、スキー技術とともに自分のスキルも磨きあげていきましょう！

そして今シーズンも、楽しく颯爽とゲレンデを滑る姿を見せていただきたいと切に願っております。